

2026年 教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) シンポジウム

これからの時代に求められる『実力ある理科教員』とは — 資質向上のために学会は何ができるか —



科学技術立国としての基盤を支える理科教育の充実は、我が国の喫緊の課題です。しかし現在、教員のなり手不足と採用倍率の低下は深刻化しており、教員確保を優先するあまり養成・採用のハードルが下がり、十分な実力を有しないまま教壇に立ってしまう現状が指摘されています。その一方で、教育現場では「観察・実験指導の自信不足」「探究学習への対応」「ICT活用」など、理科教員に求められる資質能力は高度化・複雑化しています。本シンポジウムでは、教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) 6学会がそれぞれの立場から教員の資質向上のために学会は何ができるかを提起します。「量」の確保と「質」の維持という難題に向き合いながら、「実力ある理科教員」とは具体的にどのような能力を持つ者か、そしてその育成のために各機関がいかに連携(協働)すべきかについて議論を深め、実効性のある育成モデルを模索します。

教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) とは…

初等・中等教育における教科「理科」の内容の検討にあたり、その構成、目標、内容および内容の取り扱いに関して、関連学会間の意見交換、及び調整をはかり、学校教育のよりよい発展を目指すことを目的とした教科「理科」教育関連学会6学会で(日本物理教育学会、日本化学会/教育・普及部門、日本生物教育学会、日本地学教育学会、日本科学教育学会、日本理科教育学会)構成されている。

日時 2026年6月28日(日) | 13:00~16:30

会場 東京大学生産技術研究所・駒場IIリサーチキャンパス(対面) 及び
オンラインによるハイブリッド形式



プログラム(12:30~13:00 Zoom接続)

- 13:00~13:20 開会挨拶 片山 豪 (CSERS議長/日本生物教育学会/高崎健康福祉大学)
- 13:25~13:40 「日本地学教育学会の取り組みについて」 川村教一 (日本地学教育学会/兵庫県立大学)
- 13:40~13:55 「理科の学習指導の実力を高めるために」 藤井浩樹 (日本理科教育学会/岡山大学)
- 13:55~14:10 「若手教員を対象とする化学実験研修会の取り組みから『探究的な学びの実践コミュニティ』の創出・拡大に向けて」 今井泉 (日本化学会/岐阜聖徳学園大学)
- 14:20~14:35 「物理教育レクチャーシリーズの発信から出版へ」 今井章人 (日本物理教育学会/早稲田中学・高等学校)
- 14:35~14:50 「理科教師のpedagogical content knowledgeとは何で、どのように育成するか」 越智拓也 (日本科学教育学会/成蹊大学)
- 14:50~15:05 「生物教育研究のコミュニティとしての学会が理科教員の資質能力の向上に果たす役割」 渡邊重義 (日本生物教育学会/熊本大学)
- 15:15~16:25 パネルディスカッション
- 16:25~16:30 閉会挨拶 高橋 修 (CSERS委員/日本地学教育学会/東京学芸大学)

申込み Peatix URL: <https://csers2026.peatix.com> (裏面QRコードからも申込可)

締切 2026年6月19日(金) ※定員(対面100名, オンライン250名)に達し次第, 締切となります。

主催 教科「理科」関連学会協議会 (CSERS)



2026年 教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) シンポジウム

これからの時代に求められる『実力ある理科教員』とは — 資質向上のために学会は何ができるか —

講師紹介・講演内容



「日本地学教育学会の取り組みについて」

川村教一 (日本地学教育学会/兵庫県立大学)

教員の資質向上のためには、教員研修が適切であると小職は考えている。本会が年1回開催する地学教育全国大会では地学教育のワークショップを開催することがあり、参加者が教材や指導法に関する知識や経験を獲得する機会を提供している。また、地域で野外実習のイベントを開催することもある。参加者数の実績では全国大会の方が地域での開催よりも多く、全国大会開催を継続することは、本会の重要な課題と考えている。



「理科の学習指導の実力を高めるために」

藤井浩樹 (日本理科教育学会/岡山大学)

小学校理科の学習指導では、問題解決は教師のシナリオ通りで、子どもの真の問題解決になっていない、幼児期に培われた自然への興味・関心を生活科で高めることができているといった課題がある。また学校全体では理科指導と他教科の指導との接点は希薄で、理科指導に対する教師自身の関心は低い。こうした課題に対処するには、理科の面白さを教師自身が知る機会が重要であり、ここではその具体的なアイデアについて検討したい。



「若手教員を対象とする化学実験研修会の取り組みから『探究的な学びの実践コミュニティ』の創出・拡大に向けて」

今井泉 (日本化学会/岐阜聖徳学園大学)

本講演は、化学実験ワークショップ等における実践事例および教員間の協働的省察から得られた知見に基づき、「実力ある理科(化学)教員」の資質を再定義することを目的とする。その中核として、観察・測定・解釈の連関による科学的思考力の深化、実験を中核とする授業設計力、継続的専門性の確立を位置づける。さらに、日本化学会教育・普及部門は、最先端化学・産業界・教育実践を接続する基盤として、教材開発や評価指標の提示、実践知の共有を通じて教員の専門性向上を制度的に支える枠組みを提示する。



「物理教育レクチャーシリーズの発信から出版へ」 今井章人 (日本物理教育学会/早稲田中学・高等学校)

日本物理教育学会次世代形成WGが企画した『物理教育レクチャーシリーズ』の発信が、若手物理教師の学びを支える書籍『物理教育理論と実践「物理がわかる」を育むアプローチ』へと結実した経緯を紹介する。企画の背景にある問題意識、物理教育研究と授業実践をつなぐ意義、書籍化までの過程を振り返るとともに、次世代形成WGの活動や関連する取り組みについても報告する。



「理科教師の pedagogical content knowledge とは何で、どのように育成するか」

越智拓也 (日本科学教育学会/成蹊大学)

本発表では、教師教育研究の中心的なテーマの一つである、pedagogical content knowledge (PCK) を取り上げながら、理科教師の資質・能力について検討します。PCKは、教科教育の文脈での研究が求められてきたにも関わらず、国内においては、十分に研究されてきたとはいえない状況にあります。理科教師のPCKに関する研究のこれまで、現在、これからを概観し、理科教師の資質・能力の向上について議論するための枠組みについて考えます。



「生物教育研究のコミュニティとしての学会が理科教員の資質能力の向上に果たす役割」

渡邊重義 (日本生物教育学会/熊本大学)

日本生物教育学会は生物教育研究のコミュニティであり、生物教育研究を通じた学び合いが理科教員の資質能力の向上に貢献する。教員自身が自らの研究を口頭発表や論文として発表し評価を受けることは、学校現場の探究的な学びの質の向上に結び付く。また、全国大会のワークショップ等で得た教材や指導法に関する知見は、地域の教員のコミュニティにもフィードバックされ、日々の授業実践を豊かにすることが期待される。

日時 2026年6月28日(日) 13:00~16:30

会場 東京大学生産技術研究所・駒場IIリサーチキャンパス(対面)及びオンラインによるハイブリッド形式
※アーカイブ配信は行いません。

対象 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校の教職員及び管理職、教育委員会の指導主事等、関係職員、大学等の研究者、教職課程の学生、その他、本フォーラムの趣旨に関心のある方

申込み Peatix URL: <https://csers2026.peatix.com> (右記のQRコードからも申込可)

締切 2026年6月19日(金) ※定員(対面100名、オンライン250名)に達し次第、締切となります。

主催 教科「理科」関連学会協議会 (CSERS)

問合せ csers.jimukyoku@gmail.com (教科「理科」関連学会協議会 (CSERS) 事務局)

